

---

## 第3章. 事後調査の実施状況

---

### 3.1 大気質

---

#### 1) 調査項目

工事（造成等の工事）による粉じん（降下ばいじん）の影響について、緑化による効果が現れるまでに時間がかかること、強風が想定を超えて発生する可能性があることなどから、保全措置の効果や予測結果の不確実性が残るため、以下の項目について事後調査を実施し環境影響の状況を確認する。

- ・粉じん（降下ばいじん）

#### 2) 調査方法

調査地点にダストジャーを設置し、降下ばいじん量を測定した。

#### 3) 調査地域・地点

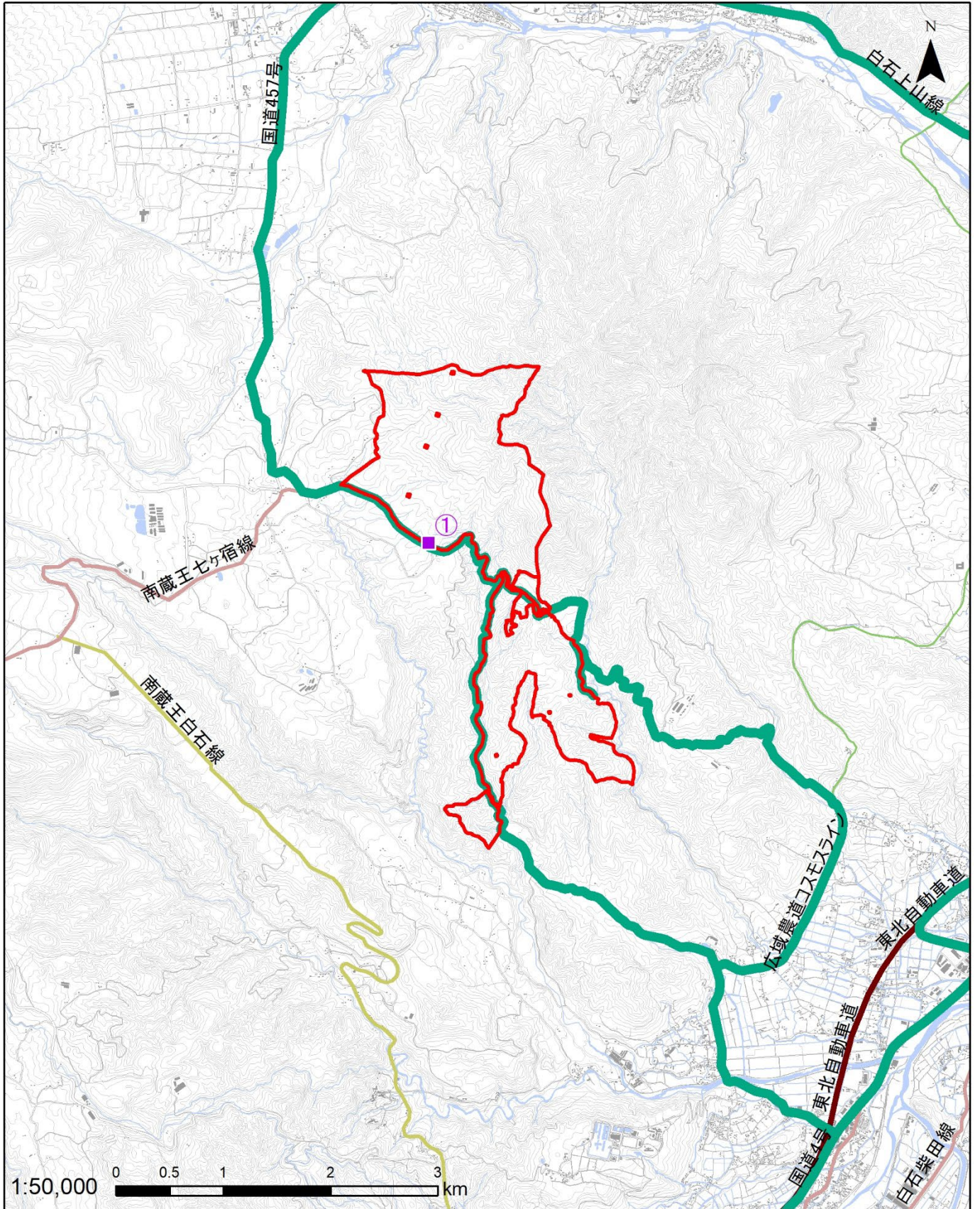
調査地域・地点を図 3.1-1 に示す。図中①にて観測を実施している。  
事後調査計画で設定した調査地点のうち、施工範囲に近い調査地点①において実施した。

#### 4) 調査期間・頻度

2021年8月13日より連続観測を実施している。  
月に1回ダストジャーの点検・交換を行い、1か月間の降下ばいじん量を把握した。

#### 5) 調査結果

過年度からの調査結果を表 3.1-1 及び図 3.1-2 に示す。調査直後の2021年9月の回収では、総量 11.31t/km<sup>2</sup>/月と比較的高い値となっていたが、以降は低く 5t/km<sup>2</sup>/月以下で推移している。2021年9月回収で比較的高い値となった要因については、他の月に比べやや降水量が多かった（設置期間 2021年8月13日～9月13日：気象庁観測局白石において雨量が 259.5mm）ことが挙げられる。当該工事に関連する特殊事象については確認されておらず、以降低水準で推移していることから、今後の状況について引く続き観測を行う。



- 凡例
- 事業実施区域
  - 大気質測定地点
  - 搬入経路

図 3.1-1 大気質調査地点

表 3.1-1 大気質調査結果（降下ばいじん）

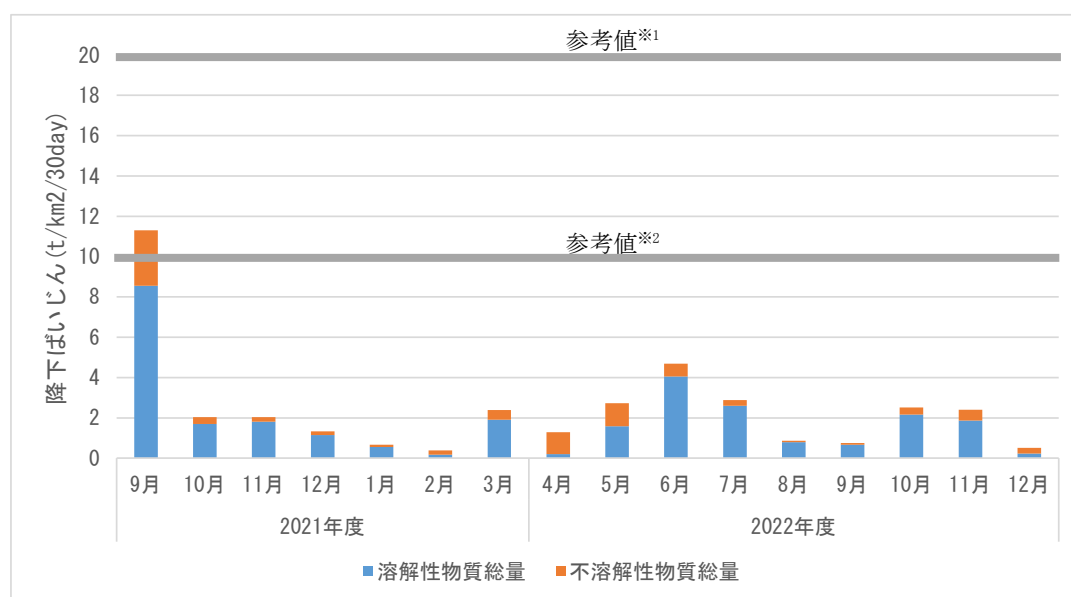
（単位：t/km<sup>2</sup>/月）

年度	2021 年度						
	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
総量	11.31	2.04	2.04	1.33	0.67	0.38	2.39
溶解性物質総量	8.55	1.70	1.81	1.15	0.55	0.17	1.91
不溶性物質総量	2.76	0.34	0.23	0.18	0.12	0.21	0.48

年度	2022 年度									
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	
総量	1.29	2.73	4.71	2.89	0.87	0.76	2.51	2.4	0.51	
溶解性物質総量	0.21	1.58	4.06	2.60	0.80	0.67	2.16	1.87	0.23	
不溶性物質総量	1.08	1.15	0.63	0.29	0.07	0.09	0.35	0.53	0.28	

注1) 降下ばいじんは、衛生試験法・注解 2020（日本薬学会編）ダストジャー法を用いて分析を行った。  
 注2) “月”は、回収した月を記載している。



注) 参考値は以下のとおり  
 ※1：スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標を参考にした 20t/km<sup>2</sup>/月を示す。  
 ※2 評価書において粉じんの評価方法に示した参考値“工事寄与の降下ばいじん量が 10t/km<sup>2</sup>/月以下であること（道路環境影響評価の技術手法（平成 24 年度版））”を示している。

図 3.1-2 大気質調査結果（降下ばいじん）

## 6) 予測・評価結果の検証

予測結果は 2.2～3.4t/km<sup>2</sup>/月であるのに対し、施工中調査結果は 0.38～11.31t/km<sup>2</sup>/月である。2021 年 9 月の回収で、総量 11.31t/km<sup>2</sup>/月と最も高い値となっており、“工事寄与の降下ばいじん量が 10t/km<sup>2</sup>/月以下であること”とした評価指標をやや上回る。ただ 2021 年 8 月から 9 月にかけて、当該工事に関連する特殊事象については確認されていないことから、他の要因も考えられる。その後の観測では予測結果と程度またはそれ以下で推移しており、今後の状況について引く続き観測を行う。

なお 2021 年 9 月の回収においても、スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標 20t/km<sup>2</sup>/月との比較では、十分下回っている。